

きらきら100個 （まうきう） ～ウガンダと日本のいいところ探し～

実践場所	栃木県	宇都宮市立横川東小学校	実践者	石塚 美香
対象	4年生(37名)		時間数	10時間
担当教科	全教科		実践教科	国語・図画工作・体育・道徳 総合的な学習の時間・学級活動
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ウガンダと日本との相違点や共通点、良いところ(きらきら)を見つけながら、世界に興味関心をもつ。 ・ウガンダの子どもたちと直接繋がることによって、自分も同じ世界に生きる仲間の一人であることを知り、今後どのように生活していけばよいのか考えることができる。 			
実践内容	回	プログラム		備考
	1	●体:日本の遊び教えちゃいます♪～大なわの8の字～ ・大縄跳びの8の字をやる。(交流授業で使用する Movie 撮影)		<出発前> ・大縄 ・デジカメ
	2	●学:ウガンダにメッセージ発信～ウガンダの友達へのメッセージ～ ・メッセージはちまき・折り紙の作成。(交流授業で使用するはちまき作り)		・はちまき ・折り紙
	3	●総:目指せウガンダ名人～ウガンダを知る～ ・ウガンダを知り、ウガンダに興味をもつ。		<帰国後> ・国旗・通貨・ 楽器・衣装 ・写真・Movie・ PowerPoint
	4	●学:世界の国にも友達ミッケ！～国境を越えて～ ・交流授業の様子を見ながら、ウガンダの子どもたちに親しみを感じることができる。 ・交流授業で使用したはちまきを見せながら、両国の子どもたちを繋げる。		・Movie ・PowerPoint ・はちまき
	5	●国:われら日本親善大使～日本を紹介しよう パート1～ ・ウガンダの友達(あしながウガンダ)に日本の遊びや伝統を紹介することを通して日本の良さに気付くことができる。		・国語:“くらしの中の和と洋” ・図工:“ハッピーカード”
	6	●図:われら日本親善大使～日本を紹介しよう パート2～ ・国境を越えた仲間の存在を感じ、繋がることの楽しさを味わう。		・折り紙
	7	●国:ミニミニ郵便屋さん～手紙の出し方マスター～ ・県外(茨城県)、国外(ウガンダ)への手紙の出し方を知る。		・国語:“お願いやお礼の手紙を書こう” ・封筒(切手)
	8	●道:水くみ隊 出動！～ウガンダの生活を体験しよう～ ・ウガンダの生活のライフラインである水汲み(運び)の体験をする。		・水(ペットボトル) ・ランドセル
	9	●学:ウガンダクッキング教室～ウガめしを食す～ <学校自由参観日> ・ウガンダのポシヨと日本の米を食べ比べながら、それぞれの良さを知る。 ・世界の食事に興味・関心をもつ。		・ポシヨの粉・米 ・豆スープ ・PowerPoint
10	●総:共に生きる～仲間としての自分ができること～ ・同じ世界に生きる仲間として生活を見直し、自分たちにできることを考えることができる。			
成果	世界の国々・人々をより身近に、より親しみを感じられる児童が増えた。学校生活のあらゆる場面で、簡単なウガンダ語を使ったり、異国の話になるとウガンダにいる友達へ想いを馳せたりする姿も多く見られるようになった。授業を通して、自分達ができることを考え、行動する良い機会になったと思う。			
課題	担任しているクラスでの授業や学校の先生方への研修、学校 PTA 新聞への記事の掲載などで、ウガンダについて紹介することができたが、なかなか全校児童へ直接情報を伝えることができなかつた。廊下への掲示物や全校集会など、全校児童へも国際理解教育を発信していけたらと考えている。			
備考	ウガンダクッキング教室は、学校自由参観日だったため、ウガンダの衣装や写真などをはじめ授業で扱った様々なものを展示した。クラスの保護者をはじめ、地域の方々も気軽に授業を見学できる日と場所(ランチルーム)だったので、予想以上に多くの方が授業を参観し、児童らと共にポシヨを体験してくださった。			

3 時限目「目指せウガンダ名人～ウガンダを知る～」

1 子どもの活動の流れ

- ①ウガンダの基本的な情報を知る。
- ②ウガンダで購入・入手したものに直接触れる。

この時限のねらい

- ・ウガンダを知る。
- ・ウガンダに興味をもつ。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ウガンダを紹介するための〇×クイズがとても好評だった。
- ◇百聞は一見にしかず。本物(実物)の力は偉大だった。
- ◇民族衣装は、関心が高く、男女関係なく楽しく試着していた。
- ◇相違点より、共通点・似ているところをたくさん見つけられた児童が多かった。
- ◇ウガンダに行ってみたいという児童が多かった。
- ◆ウガンダに対して「かわいそう」という印象を抱く児童もいた。



3 使用した教材

<教材1>

ウガンダで入手したもの

- ・国旗 ・新聞
- ・通貨 ・教科書(ウガンダの)
- ・衣裳 ・写真
- ・楽器(太鼓)
- ・遊具(ボール・でんでん太鼓)

<教材2>

ワークシート

めざせ！ウガンダ名人！

ウガンダって、どんなイメージ？

ウガンダには50以上を
言葉の理解があるんだよ！！
すごいね！！

自分たちの国、日本と比べてみよう！

日本	ウガンダ
国旗	国旗
たん生目	たん生目
約126,880,000人	人口
83歳	(平均しゅみょう)
4人	(日給までに)
約377,961㎢	大さき(面積)
首都	首都
30.5	23.9 (8月頃)
10.4	1.8 (1月頃)
円	お金
1,000円	お金
6:00 am	時間 0:00 am
(つまり時差は)	時間
:	身は同様？

ウガンダ語こうさ いってみよう！！

日本語	ウガンダ語	優劣度
おはよう		***
こんにちは		***
なに？		*
どこ？		*
いつ？		*
なぜ？		***
元気？		***
元気です		****
おつかれさま		****
だいじょうぶ・いいよ		****
ありがとう		****
(おもしろい)		****
	チョー・ウマニョ	
	ピリピリ	
	ンボランボラ	

<教材3>

PowerPoint

第4問

日本の主食と言えば米。ウガンダの主食と言えば、いろんな種類と食べ方があるバナナである。



第6問

日本の肉は、比較的 牛>豚>鳥の順に値段が高い。ウガンダでも同様である。



4 時間目 「世界の国にも友達ミッケ！～国境を越えて～」

1 子どもの活動の流れ

- ①ウガンダの学校や子どもたちの生活について知る。
- ②交流授業の様子を見る。
- ③交流授業でウガンダの子どもたちにメッセージを書いてもらったはちまきを見る。

この時限のねらい

- ・ウガンダの子どもたちを、より身近に感じる。
- ・ウガンダの子どもたちの愛情溢れる接し方・対応の仕方に触れる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇前時にウガンダの子どもたちを「かわいそう」と思っていた児童らも、家族のために働く同年代の友達の姿に、尊敬の念を抱くような発言をするようになった。
- ◇ウガンダの子どもたちの身体能力の高さに驚いていた。
- ◇会ったことのない自分たちに対して、温かいメッセージを送ってくれたことに感激し、「お礼の気持ちを伝えたい」という児童が多くいた。(子どもたちから「手紙を書こう」という提案が出てきた。)
- ◇ウガンダの子どもたちと、自分たちの共通点をたくさん見つけ、より親近感を感じている様子だった。



3 使用した教材

<教材1>

PowerPoint

ウガンダの学校	
起きる	
①	7:30～ 8:30
②	8:30～ 9:30
③	9:30～10:30
	10:30～11:00 (朝食)
④	11:00～12:00
⑤	12:00～13:00
	13:00～14:00 (昼食)
⑥	14:00～15:00
⑦	15:00～16:00
⑧	16:00～17:00

<教材3>

交流授業の Movie

<教材4>

交流授業で使用したはちまき

<教材2>

ワークシート

世界の国にも 友達ミッケ!

名前 _____

世界(ウガンダ)の小生(学生)って どんな人だろう?

学校について 比べてみよう!!

日本	ウガンダ
6-3-3-4	6-3-3-4
みんな同じ年	仕組み
多くても 40人	クラスの数
4月	新学期スタート
ほとんど ない	制服(小学校)
全員 無料でもらえる	教科書
国算理社音図体英総適学	教科
8:15 ~ 16:00	日課
自分の家	帰る場所
	家での仕事
	朝ごはん
	給食
	休み時間
	将来の夢

ウガンダの学校のなるほど!と すごい! たくさん見つけよう!!

あしながウガンダ

トリニティカレッジ・ナビンゴ

5 時限目「われら日本親善大使～日本を紹介しよう パート1～」

1 子どもの活動の流れ

- ①国語の教科書「くらしの中の和と洋」を読む。
- ②生活の中にある好きなことをたくさん書き出す。
- ③②の中で日本ならではのことを選ぶ。
- ④ウガンダの友達に伝えたいことを選ぶ。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇「生活の中には、日本の文化と思っていた海外の文化がたくさんあった。日本と海外それぞれの良いところを生かして生活していることに気付くことができた。」
- ◇「日本の文化の良いところを改めて感じる事ができた。」
- ◇「ウガンダの友達に日本のことをたくさん伝えたい。」

(児童の感想より)



3 使用した教材

＜教材1＞
国語の教科書



6 時限目「われら日本親善大使～日本を紹介しよう パート2～」

1 子どもの活動の流れ

- ①友達と協力して、伝えたいことやものを形にする。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇友達と協力しながら、楽しく活動することができていた。
- ◇相手に伝わるように、習っていない英単語を調べたり、絵や折り紙の実物を使用したりしながら、表現方法をどんどん工夫していく姿が見られた。
- ◇「手紙を見て、日本に来たいと思ってもらえたらうれしい。」 (児童の感想より)

この時限のねらい

- ・国境を越えた友達の存在を感じ、繋がることの楽しさを味わう。
- ・言葉の通じない相手に、より伝わるよう、表現方法を工夫する。



7 時限目「ミニミニ郵便やさん～手紙の出し方マスター～」

1 子どもの活動の流れ

- ①日本や外国へ手紙の出し方を知る。
- ②宛名を書いてみる。(県外へ・ウガンダへ)

この時限のねらい

- ・県外、国外への手紙の出し方を知る。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇手紙(宛名)を書くことが初めての児童もいて、体験する良いきっかけになった。
- ◇国内外では宛名の書き方が異なることに気付くことができた。
- ◇自分たちが作ったものが、海を越えて遠くの友達へ届くことのうれしさを実感している様子だった。
- ◇手紙の作成から宛名書きまでウガンダの友達に向けた想いがとぎれることなく、みんなで協力して活動できた。手紙を封筒に入れるときは、とても良い表情だった。



8 時限目「水くみ隊 出動！！～ウガンダの生活を体験しよう～」

1 子どもの活動の流れ

- ①ウガンダの人たちの1日を知る。(水汲みが欠かせないこと)
- ②日本ではどのくらいの水を使っているのか知る。
- ③水を運ぶ体験をする。

この時限のねらい

- ・世界の水事情を知る。
- ・水を運ぶことの大変さを体験する。
- ・大変なことを毎日続けられる理由を考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ウガンダの生活の大変さを実感しつつも、それを毎日続けることができるウガンダの人たちのすごさと、家族への愛の大きさに気付く児童もいた。
- ◇自由に水を使えることは、当たり前のことではないということに気づき、さっそく自分達にできることを考え始める姿も見られた。



9 時限目「ウガンダクッキング教室～ウガめしを食す～」

1 子どもの活動の流れ

- ①日本とウガンダの主食の違いを知る。
- ②米とポショの食べ比べをする。
- ③米づくりをアフリカで普及させるために、活動をしている専門家の坪井さんを紹介する。

この時限のねらい

- ・日本とウガンダの主食を食べ比べることで、それぞれの良さを知る。
- ・世界の食事情を聞きながら、自分にできることはないか考える。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇炊飯器ではなく、鍋で作る様子を見せた。高学年で学習する家庭科や、数年前の震災時に耳にした炊き出しのことと結びつける児童もいた。
- ◇ポショと共に豆のスープを試食させた。想像以上に気に入って、おかわりを求める児童もいた。
- ◇「やっぱり米が一番！」と、米の良さも気付く児童もいた。
- ◇自由参観日だったため、休み時間には展示しているものや自分たちが学習したことを保護者に紹介する姿も見られた。



3 使用した教材

<教材1>

ポショの粉・米・豆スープ



<教材2>

PowerPoint

第1問

ウガンダでは、よく畑に植える食べ物があります。それは何でしょう？

① トマト

② バナナ

③ にんじん

<教材3>

ワークシート

ウガンダクッキング教室									
日本					ウガンダ				
ワガンダと日本の主食のいいところをたくさん見つけよう!!									
主食					主食				
1回の食事で 主食 () おかず ()					1回の食事で 主食 () おかず ()				
①	②	③	④	⑤	ちがい	①	②	③	④
作り方 (たき方)					かかった時間				
感想					感想				
☆☆☆☆☆					☆☆☆☆☆				
☆☆☆☆☆					☆☆☆☆☆				
☆☆☆☆☆					☆☆☆☆☆				
☆☆☆☆☆					☆☆☆☆☆				

10 時限目「共に生きる～仲間としての自分ができること～」

1 子どもの活動の流れ

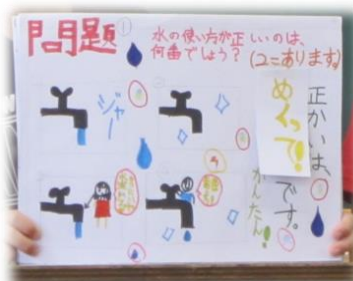
- ①今までのウガンダ授業を踏まえて、自分たちが生活の中でできることを考える。
- ②自分たちが考えたことを発表し合う。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇始めは世界の話は自分と関係ないと感じていた児童も、少しずつ興味や関心を示し、活動を進めるたびに、意欲的に活動できるようになってきた。
- ◇それぞれが自分で考え、自分の言葉で伝えることができた。
- ◇友達にも日常生活でできることを提案し、わかりやすく伝えることができた。

この時限のねらい

- ・自分の生活を見直し、小さなことでも、何か世界に繋がることができないか考えることができる。
- ・お互いに発表し合い、自分たちでもできることを考え、実践する。



■ 全体を通して

1 授業の様子

<写真1> ウガンダクッキング教室での展示物



以上